



2月16日（日）「みんなで一緒に考える“減災”」をテーマに、地域の子どもとその保護者、高齢者世代が歌笛総合住民センターに集い、顔の見えるつながりづくりを目的とした多世代交流事業が行われました。第8回目の開催となる本企画。今回チャレンジしたのは、身近な材料、道具を使って、電気・ガス・水道等が止まった中でも出来る料理「サバイバル・クッキング」と、避難所



等で実際に使われることのある「段ボールベッドの組み立て体験」。午前中のサバイバル・クッキングでは、材料を切ったり混ぜたり、子どもたちは積極的に、調理に慣れている大人たちも普段とは違う工程に戸惑いながら、楽しく参加。午後からの段ボールベッド組み立て体験では、町内在住の防災士浅野勇夫氏より、組み立て方の説明や実際に使われている避難所の様子などが話され、興味津々な様子で聞いていました。子どもたちからは「面白かった！（普段から）できることをお手伝いしたい」という声も挙がり、和やかな雰囲気の中、充実した時間を共有しました。

